

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年6月10日(火)

### 《塩が塩気を失えば捨てられる》

皆さん、今日から話が終わったらすぐに共同祈願に入ります。あまり自然に祈る練習ができていない感じがします。自由祈祷で自分の気持ちを自然に簡単な形で少しずつ祈り始めたら何とか上手く祈りを求めるようになるのではないかと思います。ミサというものは、私達が共同的に自主的に意思を表せるようなものだと思います。司祭も信徒もお互いに積極的に与る、そういうものではないかと思ひます。

今日の福音はあまりにも有名です。塩が塩気を失ってしまうと外に捨てられ人々に踏まれると言う話です。まず誰に対してイエス様はこのような言い方をなさったかを説明します。イエス様は、前に立っている人々に厳しく警告をされています。

イエス様の復活を信仰として、体験として信じてきた人々の初めての集まり、それが初代教会という共同体です。その教会が動き始めたとき、いろいろな迫害が始まりました。代表的なものはローマ時代の迫害です。その迫害は、コンスタンティヌスという皇帝がローマの宗教としてカトリックを認め、その発表をして終わりました。その時悪魔はどのようないたずらをしたのでしょうか。迫害が終わり、人々は平和な時代が来て信仰を満喫できると思いました。しかし、権力のあるローマ皇帝がカトリックをローマの宗教として認めたことにより、いろいろな機会主義者が自分の出世のためにカトリック教会に入りました。純粋に迫害を受けながら生きて来た人々は静かに今までの生活を続けました。しかしそれを利用しようとした人々がいて、その中には聖職者になろうとした人がいたため、中世期、カトリック教会は腐敗してしまいました。実際にカトリックの司祭や司教は、権力で何でも出来る立場になりました。だからお金をだして司教職を買ったり司祭になろうとしたり、ワイロが行われたり、司祭はよくないものとなってしまった時代でした。

時代は変わりましたが、塩が塩気を失ってしまったら何の役にもたちません。それを見ている人にとっては自分がどちらに向かうべきか方向感を失ってしまいます。

今日の福音を読んでお願いしたいことは、皆さま、本当に純粋な心で教会の指導者達のために心より祈ってほしいです。その祈りがあれば、その人はこの教会の信徒を正しく引っ張っていきます。日本の教会は、けっこう聖職者に対して批判的です。そして尊敬される司祭も少ないです。司教様に対しても基本的な尊重感が失われていると思います。いつも私は言っていますが、父親が子ども達に正しい必要な権威を失ってしまうとその家庭は壊れます。教会も全く同じです。司祭や司教はお父さんの役をします。お父さんがお父さんらしく見えないと子ども達はどのようにして行けるのでしょうか？これはどちらのせいであるとも言えません。ただこの福音を読んで、これから私達がもう一回考えてみるべきなのは、やはりいろいろ足りない面を持っている人間が召し出しに答えて司祭職に登ること。その人が司祭として最後まで生きて行くためには祈りが必要であるということです。一人の司祭が誕生して司祭として墓に入るまでにはどのくらい難しいことがあるか、想像できると思います。ですから冷たい目で見るとは祈ろうとしてください。そすれば、聖霊が必ず美しい共同体、教会にしてください。もちろんいろいろな失敗はあると思います。もし気にいらぬ司祭でもその人のために、ロザリオでも何でもお祈りをすれば、神様はきっとその人のことをかわいがってください。私たちは人に対してもこのような考え方で見るのが大切です。

二番目はもう少し広く考えます。私たちは信者ですといいながら信者らしくないところを持っている場合があります。信者らしくないということは塩気を失っていることです。信者なのにいつも暗い顔をしている。いつも固い話、けんかになるような話をし、攻撃的な顔、言い方をします。誰かを助け

てあげましょうという、面倒くさい顔をする。これは信者の姿ではありません。ある意味で、いただいているご聖体を冒瀆していることになります。私たちは神様とともに生きるため、優しくならなくてはならない、犠牲を払わなければならない、とイエスさまははっきりおっしゃっています。しかし私たちは利己主義的で自分の信仰をしっかりと持てていません。私たちはしっかり役割を果たさないとはいけません。人々が私たちの顔を見たとき、体から香りが出ていて、なぜあの人はこんな顔をしているのか、と気になり「あなたは何か信じていますか」と聞かれるようにならないといけない、社会のほかの人々に対し明るくならないといけない、積極的にいろいろな人々のために温かい手にならないといけない。これは選ぶか選ばないかではありません。条件なしに行わないといけないことです。

今日の福音は、塩に塩気がなくなれば捨てられる、光というものは隠すものではない、です。皆様が神様からいただいたいろいろな素晴らしい賜物は隠すものではない、それをみんなにも見せてほしいという、神様の気持ちです。このミサを通して考えましょう。私達が守らなくてはならないことを、固いものとしてではなく、温かい掬としてどのくらい実践しようとするか、意識があるか反省しましょう。そして足りないところがあれば悟らせてくださいと願いましょう。

ありがとうございました。